



園長便りひがし

令和7年7月11日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

運動会

6月22日に第53回目の運動会が行われました。園児はこの日のために一生懸命に練習をしてきました。

年少・つぼみさんのリズム「おさるのかごや」は、ニコニコしながら可愛く踊ることができました。年中さんのリズム「いろ・いろ・たんけんたい」は、隊形移動をしながらとても上手に踊ることができました。そして、年長さんのバルーンと組体操は、これまでの練習の成果が発揮され、みんな堂々と演技をして私も涙が出るくらい嬉しかったです。競技には勝ち負けがありますが、一生懸命に頑張る姿に勝ち負けは関係ありません。心をついにやり遂げてことは子ども達の宝物になると思います。

運動会役員の皆様をはじめご家族の皆様、暑い中ご声援やご協力をいただきまして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

ものを大切に

日本人は昔より物を大切にすることを美德としてきました。そして人が大切に扱うものには魂が宿ると考えました。物を大切にすることは物に執着することではありません。「物に執着する心」とは、世俗の金銭的価値観や所有欲を物に反映させることですが、「物を大切にする心」とは、より高い自己の価値観や世界観を、物を通して新たに発見するという事であって、物に対する考え方の本質がまったく別物だと思います。

以前、イチローがアメリカの小学生たちの質問に答えていたのをニュースで見たことがあります。小さな男の子が「自分も将来野球選手になりたいのだが、どうしたら貴方のように素晴らしい野球選手になれるのか」という質問をしました。イチローはその質問に淡々とした口調で答えました。『一流の野球選手になるにはいろんな方法があるけれど、自分がやってきたことで、君にも、誰にでも出来ることがひとつある。それはグローブや靴などの野球の道具を必ず自分で手入れして、大切に扱うこと』だと。大リーガーのトッププレイヤーが語る含蓄ある言葉に、思わず心の中でうなっていました。

古来、日本の名人と言われた人達の逸話を聞くと、ジャンルを問わず自分の仕事に使う道具を非常に大切にしていることを窺い知ることが出来ます。イチローのバッティングや守備における超ファインプレーは、イチロー自身の才能と努力の結果と日頃の修練の賜物ともいえるのですが、時にはイチローといえども人間の力を超越したかのような「神技」的なプレーを繰り出すことがあります。そんなときはバットやミットが意志を持ちイチローと一体になって、神技ともいえるプレーをしているのではないかと感じることもありました。まさに彼は自分の道具を大切にし、道具と心を通わせることによって、無意識のうちに自分の分身として道具を駆使していたようなのです。“自分のものを大切にするのは当たり前、みんなで使うものはもっと大事に使う”そういう子どもを育てたいものです。

